

せとやきっす検定

問題15

ねん土をかんそうさせたあとに、約一日かけて1200度の温度で焼成することを何というでしょう。

- ① 素焼き ② 本焼き ③ 炙り焼き

【解説 P88】土をねり、ろくろで形をつくり、かんそうさせたねん土に絵つけをし、ゆうやくをかけてから本焼きします。

②

問題16

地域のかまもとをめぐって焼き物を作る様子をしょうかいする毎年5月と11月にある行事は何でしょう。

- ① 赤津かまの里めぐり ② 瀬戸めぐり ③ 招き猫めぐり

【解説 P89】「赤津かまの里めぐり」ではかまもとが窯を公開し、製造現場の見学や作陶体験などを楽しめます。

①

問題17

焼き物を作るとき、ねん土をひきのばしたりするときに使う道具は何でしょう。

- ① へら ② しっぴき ③ こて

【解説 P90】こては、焼き物を作るとき、ねん土をひきのばしたりするときに使う道具です。

③

問題18

つつのような形の丸い物を作るときに使う道具は何でしょう。

- ① えぶた ② たたら ③ 手ろくろ

【解説 P90】焼き物づくりの道具には、こて、へら、手ろくろ、なめし皮、しっぴきなどがあります。

③

問題19

湯のみなどの飲み口をなめらかにするためのなめし皮はどうやって使うのでしょうか。

- ① 皮をあぶる ② 皮をしめらせる ③ 皮を伸ばす

【解説 P90】湯のみなどの飲み口をなめらかにするためのなめし皮は、皮をしめらせて使います。

②

問題20

昔、工場からとけて流れ出したねん土で起こったことは何でしょう。

- ① 川が白くなった ② 川が茶色くなった ③ 川が黒くなった

【解説 P91】流れ出たねん土で川が白くなった様子は、瀬戸の焼き物づくりがさかえていた証とも言われてきました。

①

第11回 瀬戸焼検定子どもバージョン

せとやきっす検定

注意事項

- 問題は1～20まであります。
- 答えは黒えんぴつか黒ボールペンで決められた欄に記入してください。
- 携帯電話などの電源は必ず切ってください。
- 1問5点で100点満点です。
- 70点以上を合格とします。



じゅけんばんごう 受験番号	がっこうめい 学校名	がくねん 学年	なまえ 名前
		年	

実施日：令和6年11月23日(土・祝)

瀬戸商工会議所

もん だい 問題は20問です。正しいと思う答えの番号を一つえらんで、□のなかに書いてください。(例) ①

問題1

土やねん土を使ったさまざまな体験ができる2003年(平成15年)8月にできたせつは何でしょう。

- ① ノベルティ・こども創造館 ② 瀬戸染付工芸館 ③ 新世紀工芸館

【解説 P55】ノベルティ・こども創造館では、土やねん土を使ったさまざまな体験ができ、ねん土のプールで遊んだり、スタンプを作ったりできます。

①

問題2

ノベルティが瀬戸でさかんに作られるようになったのはいつからでしょう。

- ① 明治のはじめ ② 大正のはじめ ③ 昭和のはじめ

【解説 P55】ノベルティ(焼き物でできた置物)は昭和のはじめ(約80年前)から、瀬戸でさかんに作られました。

③

問題3

焼き物を作るとき、ねん土などの表面にかけるとろのようなものを何というでしょう。

- ① ごす ② ゆうやく ③ どべ

【解説 P57】「ゆうやく」という「うわぐすり」は、高い温度で焼くと、表面にうすいガラスのようなまくができて光ります。

②

問題4

藤四郎が生まれたのは何時代でしょう。

- ① 江戸時代 ② 鎌倉時代 ③ 平安時代

【解説 P80】藤四郎の本当の名前は加藤四郎左衛門景正といい、鎌倉時代に生まれました。

②

問題5

藤四郎が20才のときに陶器の勉強をするために行った国はどこでしょう。

- ① 宋(今の中国) ② モンゴル ③ インド

【解説 P80】道元というお坊さんのおともとして宋にわたり、6年間一生けんめい勉強して、ついに宋のような陶器を作れるようになりました。

①

問題6

毎年4月に開かれる藤四郎に感しゃをするお祭りは何でしょう。

- ① せともの祭 ② 水野まつり ③ せと陶祖まつり

【解説 P81】せと陶祖まつりは毎年4月に行われ、「子ども獅子」や「せともの廉売市」などが行われます。

③

問題7

深川神社にある藤四郎が作ったとされる作品は何でしょう。

- ① 狛犬 ② 招き猫 ③ 河童

【解説 P81】藤四郎の作品として今に残っているものは深川神社の狛犬とお神酒つぼだと言われています。

①

問題8

瀬戸の「陶器」が売れなくなったのは、何とよばれる焼き物が焼かれるようになったためでしょう。

- ① 磁器 ② ガラス ③ 土器

【解説 P82】江戸時代の中ごろ「磁器」とよばれる焼き物が焼かれるようになり、瀬戸の「陶器」は売れなくなっていました。

①

問題9

加藤民吉が磁器の作り方の秘密を教わった人物はだれでしょう。

- ① 上田源作 ② 渋沢栄一 ③ 福本仁左衛門

【解説 P83】福本仁左衛門は加藤民吉を娘の婿にしようとするほどかわいがり、瀬戸から勉強しに来ていることを聞くと感心して、これまで教えないようにしていたこともすべて教えました。

③

問題10

瀬戸で磁器(焼き物の一種)を焼きはじめた加藤民吉は何と呼ばれているでしょう。

- ① 器祖 ② 磁祖 ③ 始祖

【解説 P83】瀬戸で生まれた加藤民吉は九州で磁器(焼き物の一種)の作り方を学び、瀬戸にもどって多くの人にその技を教えました。

②

問題11

顔料の瀬戸の「ごす」はとてもあざやかな何色が出るでしょう。

- ① 赤色 ② 黄色 ③ 青色

【解説 P83】瀬戸の「ごす」はとてもあざやかな青色が出るので、一色で色つけただけでもすてきな磁器(焼き物の一種)ができます。

③

問題12

第1回せともの祭が行われたのはいつでしょう。

- ① 昭和5年 ② 昭和7年 ③ 昭和9年

【解説 P84】昭和7年に第1回を開催したせともの祭は、2024年で93回目となります。

②

問題13

瀬戸で伝統的工芸品に指定されているのは、赤津焼ともう一つは何でしょう。

- ① 瀬戸染付焼 ② 水野染付焼 ③ 品野染付焼

【解説 P86】瀬戸では「赤津焼」と「瀬戸染付焼」の2つが伝統的工芸品に指定されています。

①

問題14

赤津焼会館の建物は何色でしょう。

- ① 黒色 ② 茶色 ③ 緑色

【解説 P87】赤津焼会館の建物の色が緑色をしているのは、織部という焼き物につける「ゆうやく」を使っているからです。

③